



洋上アルプス

No.36 | 令和7年度

10月



2025年10月28日（火曜日）倒伏した弥生杉周辺のモニタリング調査開始

昨年8月の台風により倒伏した弥生杉は、次の世代に伝える森林環境教育の場や観光資源として活用するため、基本的にはそのままの状態で現地に存置（保存）していますが、試験研究機関等において、弥生杉を試験研究の目的で活用いただくことは可能としているところです。また、周辺の整備については、看板の設置や植生モニタリングなどを行うこととしています。

当保全センターでは、倒伏して出来た森林空間がどのように変化していくのかを調査するため、弥生杉周辺のモニタリング調査を開始しました。主な調査内容は、プロット内（2m×2m）×4箇所の植生調査、植生保護柵内の毎木調査、定点撮影など6項目を実施する予定です。長期間にわたるモニタリングとなりますので、引き続き登山者の皆様にはご理解とご協力をお願いします。

なお、調査結果等については、森林環境教育の場などでも活用して参りたいと考えています。



植生調査プロット No2（左）、植生調査（中）、植生保護柵（右）

2025年10月01日（水曜日）令和7年度 大分舞鶴高校体験学習の実施について

10月1日（水曜日）大分県立大分舞鶴高校1年生18名を対象とした体験学習を実施しました。

この取組みは、文科省のスーパー・サイエンス・ハイスクールに指定されている大分舞鶴高校が、「野生生物の調査活動を通じ、2年次の課題研究で必要とされる実践的な基礎調査技能や将来の科学系人材としての能力や態度を育成する」ことを目的として、平成26年から毎年実施しているスキルア

ップ研修（屋久島体験研修）の一環であり、当保全センターでは植生調査の体験学習を実施しています。

当日は、JR 日豊線の事故による影響で屋久島への到着が大幅に遅れ、予定を変更して屋久島総合自然公園内で、植物を観察しながら屋久島世界自然遺産地域の概要や現状と問題点等について学習しました。当保全センター下村所長から、ヤクシカの食害による生物多様性への影響や、公園内にも自生している外来種のアブラギリが固有種と競合することによる生態系への影響等について説明を受け、生徒たちから、「成長したスギの樹皮も食害するのか」などの質問があり、熱心に話を聞いていました。

当保全センターでは、このような森林環境教育活動を通して、貴重な屋久島の森林生態系の適正な保全管理についての理解と協力を促していくために、今後も積極的に実施してまいります。



熱心に説明を聞く生徒たち